

高濃度カリウム注射製剤の適応外使用について

「ＫＣＬ注 20mEq キット(一般名：塩化カリウム)」の添付文書に記載された用法用量は、下記の通りである。

- ・ 希釈してカリウム濃度として 40mEq/L 以下
- ・ 投与速度はカリウムとして 20mEq/時を超えない
- ・ 1 日投与量はカリウムとして 100mEq を超えない

しかしながら、水分制限を必要とする患者などの状態によって添付文書を逸脱して使用する場合があります。そこで、以下に示す項目を遵守して、高濃度カリウム注射製剤の適応外使用を行う。

1. 使用する診療科と病棟の限定

- ・ 処方診療科： 麻酔科、救命救急科、循環器科、腎臓内科
- ・ 投与病棟： 手術室、HCU/CCU、2 南病棟、1 北病棟

2. 医師のカルテ記載事項

- ・ 添付文書を逸脱した用法用量で投与することの必要性を記載する
“患者の状態を改善するために、高濃度カリウム注射製剤を添付文章から逸脱した用法用量で投与する必要がある”

3. 指示簿カレンダーに投与指示を記載

★高濃度カリウム注射製剤の持続投与の注意点★

*組成：ＫＣＬ注 20mEq/20mL+生食 30ml=Total 50mL

*投与速度：○ml/時

(注射カレンダーに投与速度を入力せず、
コメントに“投与速度は指示簿参照”と記載する)

★高濃度カリウム注射製剤の持続投与時の注意点★

- ・ 中心静脈カテーテルから投与
- ・ 単独ルートで投与
- ・ シリンジポンプを使用
- ・ 使用するシリンジポンプに組成を記載した注射ラベルを貼付
- ・ ルートフラッシュは禁止
- ・ 投与終了後は、生理食塩水を 2ml/時で 1 時間ルート内のカリウムをルートウォッシュ
- ・ ECG モニター装着、血清 K 値の確認：投与開始 1 時間後採血+その後も適宜確認採血

4. 処方内容

* ＫＣＬ注 20mEq キット 20mL 1 回量：1 キット

* 生食注 50mL 1 回量：30mL

(カリウム濃度として 400mEq/L (米国で許容される最大濃度) とし、
臨床現場においては 20mEq/50mL 希釈とする)

5. 薬剤師による確認

- ・ 上記 1～4 が遵守されているか確認し、その旨を注射箋およびカルテに記載する
- ・ 不備を認めた場合は必ず医師へ疑義照会を行う

6. 調製手順

- 1). 生理食塩液（以下生食）50mL ボトルから、20mL シリンジで生食 20mL を抜き取る
- 2). 1) のボトルに、KCL 注 20mEq キット/20mL を注入する（専用針を使用）
→ 20mEq/50mL となる
- 3). 添加のリン酸リボフラビンの着色（黄色）を目安に、均一に混和する
- 4). 2) のボトルから、50mL シリンジで薬液を抜き取って使用する
*原液で投与する事はない
*注射針等でKCL 注 20mEq キットから他のシリンジに直接抜き取る事はない

7. 投与手順

- 1) 投与速度：0ml/時と指示簿カレンダーに記載する
（注射カレンダーに投与速度を入力せず、コメントに“投与速度は指示簿参照”と記載する）
- 2). 組成：KCL 注 20mEq/20ml+生食 30mL=Total 50mL
- 3). 中心静脈から投与する事が望ましい
- 4). 単独ルートで投与する。
- 5). シリンジポンプを使用
- 6). 使用するシリンジポンプに組成を記載した注射ラベルを貼付
- 7). ルートフラッシュは禁止
- 8). 投与終了後は、生理食塩水を 2ml/時で 1 時間ルート内のカリウムを流す
- 9). ECG モニター装着
- 10). 血清 K 値の確認：投与開始 1 時間後採血+その後も適宜確認採血
- 11). 投与中は“カリウム製剤投与投与中”の表示を点滴棒に掲げる

8. その他

- ・異常が見られた場合は、速やかに減量または中止を検討する
- ・低カリウム血症が改善され次第、添付文書で定められた使用法へ移行する